えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう

October2022

Écoutez Bien　Vol.39　No.451

10

あらゆるところに「統計」

表紙／秋桜（緑町）

江戸の人気スイーツ

食感も日持ちもいいのは、蒸羊羹より煉羊羹

『蜘蛛の糸巻』には「菓子の変格」という項がある。
酒も調味料も、もちろんお菓子も京都から下ってくるものが良いものという時代。
江戸だって負けてない。江戸の味ってものがある。

案内人　太田尚宏氏（国文学研究資料館　准教授）
文・えくてびあん

寛政の始。大久保主水の菓子杜氏のはて喜太郎と云ひし者。日本橋の新道の小家の表は格子作にて。夫婦に丁稚の召仕一人のくらしにて。自ら上菓子を少しばかりづつ造りて。売りけるに。煉羊羹と云う物を製しはじめけるに。今のやうにさゝ折という物もなければ、口に奢る者。重箱を持たせて。取りにやるに。今日は売り切れたりと

て空しく帰る。さらば明日とて。煉羊羹のために。招きたる客をかへす程の稱美としたるに。今は諸国にも有る中に。日光なるは江戸に勝れり。僅かに六十年の変化。素の侈りし事。菓子に於ても此の如し。　（『蜘蛛の糸巻』）

青木直己氏（※）の著書『図説 和菓子の今昔』によれば、大久保主水とは、幕府御用菓子屋の中でも別格の存在。先祖である大久保藤五郎は家康の家臣として働いていたが、三河の一向一揆で負傷してからは、時折菓子を作って家康に献上していたという。家康は江戸の城下町新設にあたり、藤五郎に上水道の見立てを命じた。藤五郎が見立てた水道は神田上水のもととなり、故に家康から「主水（もんと）」（水が濁るのを避けて「もんと」と読ませた）の名を与えられたという。代々の大久保主水は常に御用菓子屋の筆頭にあり、この家で菓子作りに勤しんだ者の中からさらに御用菓子屋が生まれた。

さて『蜘蛛の糸巻』に戻ると、大久保主水のところで菓子杜氏として働いていた喜太郎は、奉公を退いてから日本橋の小さな家で上菓子を少しずつ作っていた。煉羊羹を作り茶人や富家だけを相手に商売し始めると、たちまち評判になった。それまでの蒸羊羹より日持ちがよく、口触りもよくて美味。しかし喜太郎ひとりで大量には作れず、今日は売り切れましたと空の重箱を持って使いの者が帰っていく。各地で美味しい煉羊羹が誕生し、日光羊羹などは東照宮参拝の諸大名により全国に知られるようになった。

茶の湯とともに発展してきた和菓子。『蜘蛛の糸巻』の中には「菓子追々奢侈にうつり」と記されている。口に甘いものは人に幸せをもたらすのか。そういえば、立川にはかつて「空の都」を謳う「飛行羊羹」があった。

※青木直己氏：虎屋文庫研究主幹として長年和菓子の歴史と文化を研究、2013年に退職されてからは時代劇や漫画の食文化考証をされている、

石黒真木夫氏

1946年、埼玉県生まれ。統計数理研究所名誉教授。
岩波少年文庫とランサム全集を読んで育つ。大学生になって小さなヨットを手に入れたとき、ランサムを読んで得た知識でヨットを走らせ、「机上の学問」もむだではないと学んだ。東京大学教養学部基礎科学科、東京大学大学院理学系研究科相関理化学専門課程を経て、文部省所轄の統計数理研究所に就職。統計学に出会う。時系列解析、情報量規準、ベイズ統計学を研究。大学入試センターで法科大学院適性試験の問題作りをしたときから、統計学の社会的役割が気になるようになる。著書に『情報量統計学』（共立出版、1983、共著）、『統計科学のフロンティア５多変量解析の展開』（岩波書店、2002、共著）など。　実は都立立川高校のご出身。立川とはご縁のある方だった。（プロフィールの一部は『統計学をめぐる散歩道』（岩波ジュニア新書）より。）

明日の当たり前を今日見つけるのが統計学

実はあらゆるところで使われている情報技術

世の中のあらゆることを時系列解析の専門家が見るとどうなるか。
短いコラムの中に、気がつかなかったことがたくさん含まれていた。
立川は専門家の集まるところ。見過ごして生きていたらもったいない。

石黒先生のコラムはこちらから
https://www.ism.ac.jp/gaiyo-news/News/No156.pdf

――本年5月に刊行された「統計数理研究所ニュース」にありました先生のコラムを読んで興味をもちました。「〈専門家〉という魔物」というタイトルでした。

石黒　はい。そうでしたね。

――中にこう書いてありました。「専門家として備えるべき知識のひとつに当該分野に関する「普通の人」の「無知」に関する知識があると考えるべきです」と。さらに「何かに愛着があって、そのことに時間をつぎ込んだ人が専門家になるように思います。愛着がどこから生ずるのかは不明で「魔物」にとりつかれるようなものだからと考えるしかないと思われます。この魔物にとりつかれた人たちを「普通の人」が見ると非生産的な余裕なことをしているように見える。しかし「魔物」にとりつかれてしきりに石を割ってはかけらを見つめていた祖先がいなかったら現在の我々の生活は無いに違いありません。」

石黒　ありがとうございます。とてもいい要約です。

――立川って、サブカルチャーの街と言われていて、いわばオタクの多い地域なんです。専門家とオタクって似てますよね。

石黒　オタクはいろいろな事が好きで、それを自前でやっているでしょう。ところがね、研究っていうのは、オタク的なことを税金頂いてやっているんです。いわゆる学者という人はみんな楽しいんですよ。楽しいことをやっていてお金が頂ける。僕はいろいろな所と付き合ってきて、国立天文台とも結構長く付き合ったのですが、ある時夏の学校のような所へ一緒に行きました。そこである学生がこう言ったんですね、国立天文台ってこんな楽しいことをやっていてお金までもらえるんですか?って。それってある意味自分も思っていたことだった。

――ええ。

石黒　研究ってオタク的な面がすごく強いんだけれど、オタクしていてお金を頂ける。頂いていていいんだろうかと、実はそのコラムを書いていた時、ずっと底に流れていてなんとなくモヤモヤしていました。昔、皆が汗して畑を耕している時、そばに何もしない人間がいたはずなんです。たいていは金持ちの子どもで、お前働かなくていいから考えてろみたいなことだったはずなんです。現場から少し離れて今すぐに役に立たないことをやっている人間がいることが社会全体としては良いことなんだとわかってきて、じゃあ税金使ってもいいよねとなったのだと思います。お金を頂く側としては、自分自身ができなくても仲間のうちの誰かが世の中の役に立つことをやっていれば、その仲間を助けることをしていればいいかな、という感じですね。

――よく言われる基礎研究と同じですね。

石黒　そう。お金を出す方にしてみれば、将来役に立つことが出てくればなと思うのは当然ですが先のことはわからない。「これができるようにお金を出す」というのでなく「何か見つけてよ」とお金を出すのが基礎研究支援です。任された方としてはある範囲のことまではかなりわかっているけれどその先にわからないところが広がっている。そこで何か見つかるかどうかわからないんですよ。基礎研究にお金を出さないと、わかっている所が広がらない。世界中を見渡してみると、日本はちょっと足りない。私がひとつ思うのは、日本人は堅実で真面目すぎる。ギャンブルしないですよね。乱暴な言い方をすると、研究はギャンブルに近くて先に行って何かわかるかどうか、わからないものを見つけるという話ですから。うまくいかなくて当たり前なんです。でもたまに誰かうまくいくことがある。ギャンブルとの付き合い方がうまくて適当に楽しむというカルチャーがありますが、日本人はちょっと真面目過ぎてうまくできないんですね。

――何か見つけるって、どんな発見ならいいのでしょう。

石黒　今までなかったものなら何でもいいわけではなくて、新しくてかつ明日には古くなるものでなければならない。

――え?

石黒　例えばアインシュタインが$E=mc^2$という式を発見した時はそれまで皆思いもつかなかったことだけれど、翌日には当たり前になる。明日には当たり前になることを発見するということです。今までなかったもの、新しいものを作るということではなくて、新しくてかつ明日になったら古くなるものでなければならない。わかりきっているものとわからないものとの境界で勝負しているのが科学者なんです。そういうことは必要だし、そこにある程度お金は出さなければならないのだけれど、出したお金の9割は戻ってこない。だったら能力のある人に研究を任せればいいということになりますが、

――はい。

石黒　能力と運とは見分けがつかない。

――（笑）

石黒　すごい偉業を達成した人も、ふと思いつくんです。地道に何かを積み上げていって創るのではなく、たまたま気がつきました、ということ。同じような2人を並べて、そのひとりが次々にやってのけるのを見ていれば、運か能力か見分けがつきます。ある人が新しいことを百も千も見つけていればそれは能力でしょう。運ではない。でも大発見って一生のうちに2回あるか3回あるかです。2回か3回のことを運なのか能力なのか、データで見分けることは不可能です。能力の差はおそらくあることで、見つける人と見つけない人の差はあるのでしょうが、例えば2人が1万年くらい生きていて、その間にやったことを見ればわかるかもしれない。でもだいたい100年で死にますから、100年の間にやったことで統計的に能力と運を見分けるのは不可能だと僕は思います。

――なるほど。

石黒　学者って論文を書かなきゃならないんですが、なかなかうまくいかない時期があったりしますからね、それを焦らないで待てる性格でないとやっていけないです。やっぱりきついですからね。明日になったら古くなることを今見つけろって言われたら、きついです。

――統数研の発見って、わかりにくいですよね。モノがないから。

石黒　よくわかっていただいていますね。ようするにやり方、なんです。例えばサグラダ ファミリアも完成に近づいていますが、素晴らしいモノができあがった時には壊されてしまう周囲の足場みたいなものなんです。足場がなければ何もできないように、実は統計がなければ何もできないのです。隣に裁判所がありますが、裁判もそうです。あなたがやったことはこうで、こういう判決を下しますとなりますが、こうだったらこうということは法律で決まっています。けれども本当にそうだったかということについては、認定作業になります。証拠に基づいてあなたはその人に悪意をもって働いたと認定しますと、認定できたからあなたの罪はこうですと、あらゆるところに認定作業がでてきます。犯人である可能性が70％というとき、実は統計が使われているのですが、70%なら犯人と認定していいかどうかは統計学で答えが出せません。

――医療などにも認定は使われていますよね。

石黒　まさに医療は認定です。診断は最もそうでしょう。我々はああだったらこうという規則は知っているけれど、実は何でも認定から始まるんです。コロナ感染症でテレビに出てくる専門家は間違ったことは言いたくない。今日1人だったのが明日2人になる。再生産数が2だったら、明日の2人は明後日4人になる。翌日は8人になりますということを言う専門家がいます。でも2が4になり、8になることは専門家でなくてもわかります。知りたいのは、本当に2ですか、というところです。2と認定していいのですかということですね。

――ああそうですかと聞いていました。

石黒　認定というのは「普通の人」がするものです。専門家は、こういう条件だったらこうですという知識を持っています。でも認定を専門家に任せてはいけません。メディアの質問に歯がゆく思いますね。なぜその認定ができるのですかという質問をしてください。

――はい。

石黒　コロナに関しては、データはいっぱいあります。けれども例えば今日の感染者数が東京で1,500人だったとして、いったい何人調べたのかということはあまり出てこない。5,000人調べて1,500人なのか、2,000人調べて1,500人なのか。エビデンスではあるし、今日1,500人だというのは事実です。それをどう読むかという時、何人がどういう理由で検査したのかということがわからないと実はその数字が多いのか少ないのか判断がつかない。日本海のイカがどこにいるかという研究に携わったとき、イカが捕れましたという報告を漁船から受けるのですが、漁船は遊びでイカを捕っているわけではない。イカのいそうなところにワッと集まってきているのだから、あのデータは漁船がどこにいるかというデータがほとんどです。イカがどこにいるかではないんです。コロナも患者がどこにいるかではなくて、だれが検査を受けたかというデータだということです。スペイン風邪が流行ったときもどう終息したかはわかっていない。あの時は必死になって患者を治療しているうちに収まってきたということなのでしょうが、今回もある意味パニックになって治療に専念するのが精一杯で、ウイルスがどこにいるかを調べるまでには追いついていない。

――先生はワクチン打たれたのですか。

石黒　僕自身は3回目の副反応がひどくて、4回目は思案中。ウイルス研究が進んで、ウイルスについての「当たり前」が発見される日が来るのを待ち望んでいます。

第50回 全国消防救助技術大会 in 東京・立川

50th NATIONAL RESCUE MEET TOKYO 2022

開会式の様子

12年ぶりの東京開催　多摩地域では初

陸上で、水上で、「命を救う」を競う。
安全に、確実に、迅速に。
全国から394チーム、931名が全身全霊で一瞬に臨んだ。

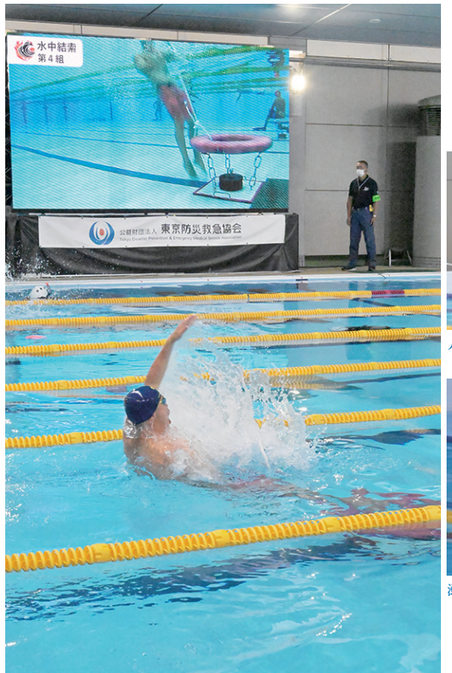
2022年8月26日（金）。全国消防協会消防本部723本部から選抜された931名が、陸上の部と水上の部に分かれて、それぞれ立川立飛特設会場と東京消防庁第八消防方面訓練場に集った。陸上の部では、競技に先立つ技術訓練（使用器材や訓練内容を定めず出場隊員の創意工夫のもと訓練想定から救助方法までを披露する）には東京消防庁・稲城市消防本部がドローンを使っての救出展示を行い、その後、ほふく救出、ロープブリッジ渡過、引揚救助、はしご登はん、ロープブリッジ救出、ロープ応用登はん、障害突破が競われた。

一方水上の部では、陸上の部同様、隊員の創意工夫による技術訓練を新潟市消防局が行い、その後、複合検索、基本泳法、溺者搬送、人名救助、溺者救助、水中結索、水中検索救助を競った。陸上も水上も、一人ひとりの技能の高さには驚くしかない。その上に隊員間の連携があって「救う」につながる。レスキュー隊員の日頃からの鍛錬で、平和な毎日が維持される。

開会式では大会会長でもある清水洋文東京消防庁消防総監の挨拶、開催地挨拶として小池百合子東京都知事、また来賓として清水庄平立川市長も祝辞を述べた。陸上会場の暑さや水上会場の湿気にもかかわらず、多くの来場者が集まった。「救う」がRescue Spirits。どの瞬間も美しく、かっこいい。

大会会長挨拶　清水洋文消防総監

小池百合子東京都知事



◉ 陸上の部

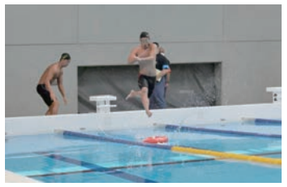
はしご登はん

障害突破

ほふく救出

ロープブリッジ渡過

人命救助　陸にいる隊員がロープで引っ張る


溺者救助　溺れている人を見失わないようにじゅんか飛び込みで入水する

溺者搬送

水中検索救助

水上の部　撮影：中村 伸

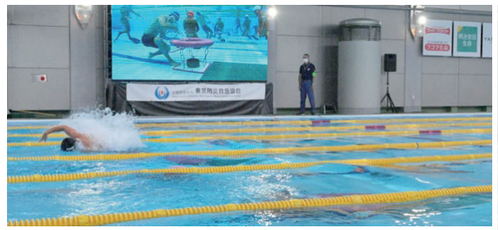
引揚救助

陸上の部　撮影：えくてびあん

◉ 水上の部

複合検索

基本泳法


水中結索（水中でロープを結ぶ様子はモニターで）

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 泉町・西砂町・一番町・上砂町・砂川町
柏町・幸町・若葉町・栄町・高松町 のお店です。

泉町・西砂町
- 立川ルーデンステニスクラブ 525-9677
- blooming bloomy らぽーと立川立飛店 548-1215
- Café はぁもにぃ♪ …… 512-7810
- 大和ハウス工業（株）多摩支店 525-1821

一番町
- 砂川庵 甚五郎 …… 531-6788

上砂町
- 私立立川ひかり保育園 ……531-1273

砂川町
- B3+ギャラリーウェルメイド 538-7250
- fresh shop スーパーはしもと 536-2331
- みのーれ立川 ……538-7227
- 陶工房 己流庵 ……537-6102
- たましん 砂川支店 …… 535-4411
- 珈琲豆焙煎工房 まめ吉 ……535-1070
- BREAD & Sweets マニシェール 537-2202

柏町
- 山梨中央銀行 立川支店……536-0871
- 株式会社 セレモア…… 534-1111
- 超こってりらーめん パワー軒 535-1665
- H.works ……537-7763
- ベーカリー リオンドール …… 535-4882
- （有）まつい測量……534-4411
- ピーコック 玉川上水店 ……538-3861
- 菅家医院 ……536-4602

幸町
- いなげや 立川幸店 ……537-1820
- たましん 幸町支店…… 535-5311
- 中国料理 SANFUJI…… 536-3813
- 西武信用金庫 幸町支店 ……537-3101
- お米屋さん 大黒屋 ……536-0851
- 松浦商事 株式会社 ……535-6001
- 至誠キートスホーム……538-2323
- とんかつ・割烹 かつ亭 …… 535-4611
- ドイツ製法ハム・ソーセージ ゼーホフ工房 535-5009
- 和洋菓子 たちばな ……537-0347
- 青梅信用金庫 ……535-3411
- BS タイヤショップ 佐藤商会 537-0912
- 在宅療養支援診療所 立川在宅ケアクリニック 534-6964
- 古楽の小屋 ロバハウス……536-7266

若葉町
- スーパー ヤオコー ……538-1711
- ありた整骨院……534-1622
- カフェ タイニーガーデン…… 507-1346
- カフェ・レストラン てくたく 536-5788

栄町
- たましん 栄町支店…… 536-9711
- いなげや 立川栄町店 ……523-7201
- チーズ王国 本社…… 513-4101
- 高橋酒店 ……522-4479
- 彩食中華 須崎 …… 507-0981
- 寝具の石川 ……524-1333
- 手作りパン工房 Bonheur ～ボヌール～ 536-3207
- FUKUSHIMAYA 立川店 534-1700
- メンズカット ヤザワ ……536-8738
- エフエムラジオ立川株式会社 537-8102
- （株）立飛ホールディングス 536-1272
- 大型コインランドリー マンマチャオ栄町店

高松町
- 立飛麦酒醸造所 …… 527-1894
- 金田スイミングスクール立川立飛
- ルーデンス食堂
- 米穀・食料品 横町屋…… 522-2609
- サイクルセンターシバタ……522-3888
- セイロン風カリー シギリア 507-2418
- ライブハウス Crazy JAM 529-9507
- 立川湯屋敷 梅の湯…… 522-3800
- ヘアーサロン イトウ ……522-6281

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー！：529ch

スカパー！で放送の常楽我浄は
スマホアプリ「スカパー！番組表」（無料）で視聴できます。

J:COM 多摩：11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題 TOPICS OF TACHIKAWA

令和四年の諏訪神社例大祭

コロナ禍で、諏訪神社のお祭りも中止になってしまうのかなと思っていましたら、規模は縮小されましたが実施されました。8月26日の夕刻から、南口の諏訪通り商店街ではお囃子が聞こえてきて、いいもんですね。引き寄せられるように人が来る。でも、通りに出店の屋台はありません。諏訪神社境内のみでお祭りが行われ、お神輿も揉むことなく神事のみとなりました。

一方、北口のサンサンロードでもお祭りの雰囲気を味わうことができました。立川市内にある高等学校吹奏楽部の演奏や、盆踊り、お神輿を担いで歩く…。中途半端といえば中途半端かもしれませんが、それでも人は集まってきて、とても賑やかでした。来年は花火にお祭り、普通にできるといいですね！

諏訪神社境内（撮影：鈴木富吉さん）

諏訪神社境内で（撮影：えくてびあん）

北口サンサンロードで（撮影：えくてびあん）

立川よいと祭り延期開催

8月6日に予定されていた第34回立川よいと祭りですが、コロナ感染症第7波の拡大を受けてやむなく中止となってしまいました。でも伝統行事の保存と継承はとても大事。また市民や参加団体のご期待にも添いたいと、この度延期開催されることとなったそうです。日時は、10月15日（土）。8月に予定されていた内容から一部変更しての実施となります。楽しみですね！

かつてのよいと祭り

第71回 はたらく消防の写生会作品展

子どもたちによる消防の絵画作品展が、8月11日から14日の4日間、伊勢丹立川店5階特別室で開催されました。消防の仕事への関心や防火防災意識の向上のため例年行われているものです。立川市・国立市の小中学校26校で「はたらく消防の写生会」を実施、2,446人が参加し、今回は入賞作品が展示されていました。子どもたちの絵は生き生きと、すばらしいものばかりでした。

3人制ダイス優勝！

立川が生んだ立川のプロバスケットチーム。それが立川ダイスです。2016年に始動した3人制のチームは国内最高峰リーグ「3X3.EXE PREMIER」で優勝する強豪となり、今季も8月6日ららぽーとTOKYO-BAYで開催されたROUND.6で優勝、キャプテンの池田千尋選手がMVPを獲得しました。

3人制立川ダイス　8月6日優勝とMVPの表彰の様子

5人制ダイス始動！

一方今季から始動する5人制立川ダイスはB3からの参戦で、まずはB2昇格を狙います。1つの目標に向かって全員でプレーする。1人ひとりがやれることを精一杯頑張る。立川の立川ダイス、みんなで応援したいですね。直近のホームゲームは、10月15日、10月16日、11月5日、11月6日。会場はもちろんアリーナ立川立飛です。会場を、ダイスブルーで染めましょう！

9月1日のプレシーズンゲームvs東京ユナイテッドBCの様子

表紙

コスモス（国営昭和記念公園）

中央線沿線のコスモスと言えば国営昭和記念公園でしょう。原っぱにも花の丘にも、色とりどりのコスモス群生が美しい。黄色も茶色もきれいですが、青空に映えるピンクは最もコスモスらしく、外せないショットです。コスモスは秋桜とも書きますが、秋は台風の多い季節。台風の風雨に耐えて、力強く立ち上がり、時期にはきちんと美しく花を咲かせてくれます。大風が去った後に訪ねると、背の高いコスモスはなぎ倒されたり葉っぱが撚れていたり。青空を背景に群生を撮るなら問題なくても、ズームすると難点が目立ってしまうものです。たくさんある候補写真から、今回はあえて青空を外して、それだけで美しい一輪をお届けします。「雨ニモ負ケズ　風ニモ負ケズ」短い秋の日を謳歌する秋の桜です。

かたこと

◆9月号の小欄で「秋を呼べども涼は来ず」というようなことを書いたのですが、9月号が納品される頃からなんだか秋めいてきて、「天気のことは書くものじゃないな」と反省。インタビューにご登場頂いた石黒先生が、「台風がどういうコースを通るかとか前線がどこにできるかというのはある程度計算できるのだが、雨が降るかどうかは計算できない」とおっしゃったのにはびっくり。聞いてみると面白い話ばかりで、全部掲載できないのが残念でした◆そして再びの統数研です。石黒先生に続き鎌谷研吾先生のコラムもまた面白い。「対称性と非対称性」というタイトルですが、中の学問的部分はよくわからなくても、前振りとオチが最高です。緑茶と金平糖、気になる方はぜひ統数研のHPにアクセスしてみてください◆頭の中に一生懸命汗かく研究者に対して、本当に肉体で勝負する姿はわかりやすくて、感動します。チームで動く時、救助される役の人もいますが、この人も大変だと聞きました。体重をぴったり63kgに合わせるそうで、最後は水を飲んで調整するのだとか。会場で、えくてびあん2005年9月号にご登場いただいた清塚光夫さんにお目にかかりました。2004年10月に発生した新潟中越地震の際、立川にある第八方面本部消防救助機動部隊部隊長として、土砂に埋まった車から男の子を救出する指揮をとられた方です。退職されてもう5年経つとおっしゃっていましたが、レスキュー魂は健在です◆2022年も10月号まで来ました。世界を見れば、止まない戦闘、大雨、洪水、干ばつ、山火事、物価上昇、そしてコロナ+インフルエンザ…。生きにくい世の中ですが、希望を見失うことなく明るく笑顔で、えくてびあんは前に進みます！　えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©

10月号　第39巻　通巻451号

令和4年10月1日発行
発行　有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082　FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人　黒須 環
企画・写真・編集　えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男（WATER DESIGN ASSOCIATES）
印刷　ダイオーミウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

ニチニチソウ、カヤツリソウ　カフェのある道沿いで　花、花器とも大森良子

私の立川 私と立川 ―― 6

スープカフェ なんでもない日の穏やかな日々

立川駅から根川に向かう下り坂。日曜日の朝、夫が焼いたシフォンケーキやクッキーをバッグに詰めて、目指すは「スープカフェなんでもない日」。店先で焼き菓子を売らせてもらうようになって早三年。ここで過ごす一日は、私の大切なルーティン。

散歩途中のワンコ、サンダル履きのご近所さん、お母さんのお腹の中にいる頃から通っているという女の子、ネットで見つけて遠方から訪ねてくるカップル…本当に色んな人がやってくる。たまたま同じタイミングで集った人々が、小さな空間でしばし同じ空気を共有する。彼らの耳に入ってくるBGMは、スタッフたちの「ゆんたく」。沖縄の方言でおしゃべり、団欒という意味。

去年、私は五十歳になった。イメージしていたような五十歳には全くなれていない。思うようにいかないことや、うまくできないこと。けれど、ここでみんなの「ゆんたく」を聞いていると「それでいいのかも」と思えてくる。大丈夫、大丈夫って背中をポンポン叩いてもらっているような気持ちになる。おばあちゃん家の縁側にいるような日曜日。私の大切なルーティン。

minobuuno　伊澤千華